AntHill Inn

～自己を gl から見つめ直す～

どんな生物もいつかは死に、地面に帰る。
GL とは、生と死の境界線であり、自分について見つめ直すきっかけをくれる鏡でもある。
そこで我々は今回、ミクロの視点、マクロの視点両方から GL を見つめて、自分と向き合いなおせる時間をくれる建築を目指した。

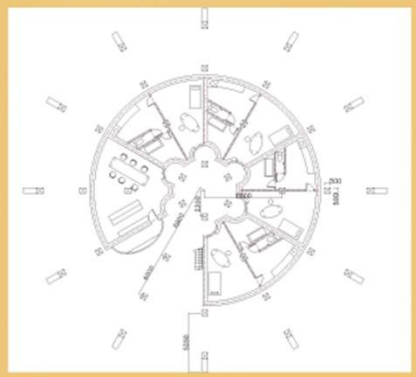
計画

建築予定地　アフリカ、ケニアのマサイマラ国立保護区

本計画は、広く遠くまで見渡せるサバンナにおける観光ロッジするため、観光地であり、比較的アクセスしやすいアフリカケニアの赤道付近にあるマサイマラ国立保護区を選んだ。外部に対して閉じた構造とサバンナに対してひらけたバルコニーを持つ。

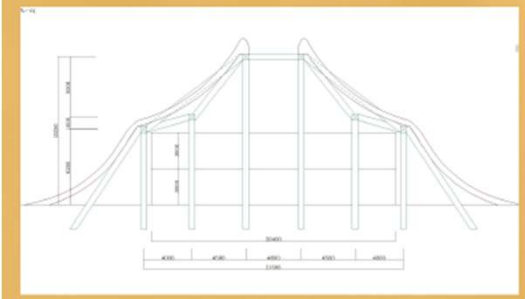
1F

2F

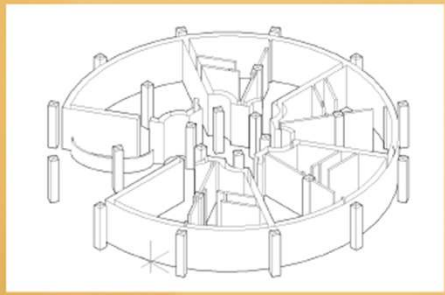


全８部屋からなるホテルで、それぞれのドアが窪んでいたり、視界を遮る柱があり、出来るだけ他の客との視線が被らないような工夫がされている。部屋には窓がなく、版築の壁と土の屋根に囲まれた暖色に包まれた落ち着いた空間になっている。

断面図

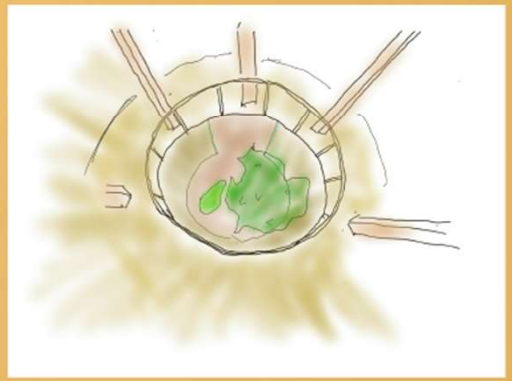
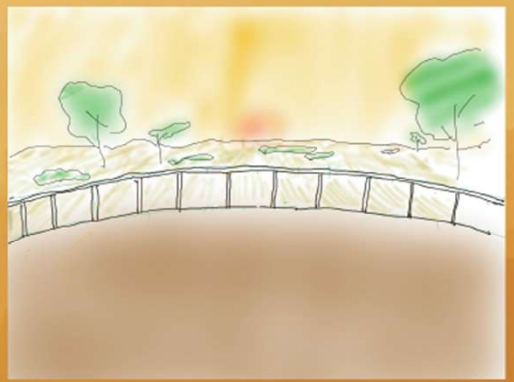


パース



構造は蟻塚の構造を参考にしていて、現地の素材をそのまま使える点や、寒暖差の大きいサバンナにおいて内部の気温を一定に保てるなどのメリットがある。内部の版築の壁と外部の土の屋根の間に空間があることで、煙突効果を生み出している。

ミクロの視点とマクロの視点



この建築のコンセプトから、GL を様々な視点で見つめ、考えを巡らせる空間が必要だと考えました。そこで、サバンナの地平線に対してひらけたバルコニーからは GL に対するマクロの視点と、内部の円柱の空間ではより近くで見るミクロの視点を提供しています。